

学校経営計画の具体的な経営目標・計画	
1 個性と能力を伸ばす学習指導の展開	
(1) 「個に応じて、力を伸ばす」学習指導の工夫	(2) 系選択のための基盤づくりと生徒主体の特色ある教育活動
2 キャリア形成と進路実現につながる学びの提供	
(1) 「じゃみビジョン」の効果的活用	(2) 「総探」「表現」の連携によるキャリア教育と進路指導の充実
3 生徒の成長を軸に、双方向の学びにつながる地域連携の充実	
(1) グローバルCSを見据えた校内外の基盤づくり	(2) 教育DXの推進による地域や姉妹校等との連携
4 40周年記念事業と協働的な職場づくりの推進	
(1) 40周年行事に向けた計画的な準備と実施	(2) OODAループが機能する協働的な職場づくり

達成評価	
評価	目安
A	達成基準を上回った
B	ほぼ達成基準どおり
C	達成基準を下回った
(○は数値評価、●は取組評価)	

番号	主たる担当	具体的方策	方策の評価指標・達成基準	中間期		年度末		
				達成状況	評価	達成状況	評価	
1	(1)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ●個に応じて力を伸ばす授業改善の目標を設定・共有し、取り組む。 ●年2回の公開授業に保護者が参観しやすい工夫を検討し実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全教員に共有した目標に即した授業改善がなされているかを公開授業で各教員がチェックし合える体制を整備する。 ○学校評価アンケート「学力向上に向けて、学校全体で取組がなされている」において、肯定的評価を85%以上の保護者が回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「思考力」をテーマに全教員で授業改善を行っている。6月の公開授業において、気づきを参観シートでフィードバックしたり、若手教員がベテラン教員の授業を見学後、「授業紹介」をSNSで紹介したりする仕組みを設けた。 ○学校評価アンケートは2学期実施予定であるが、6月の公開授業週間では保護者の来校者数が83名と昨年を大幅に上回り、保護者アンケートに関しても肯定的な意見が100%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●11月の公開授業週間に、4名の教員が研究授業を実施し、外部講師を招いて研究協議を行った。教科横断型授業にも5名の教員が挑戦するなど、積極的な授業改善の取組を行うことができた。今年度の公開授業における保護者来校数は111名となり昨年度から大きく増加した。 ○学校評価アンケート「学力向上に向けて、学校全体で取組がなされている」において、保護者の肯定的評価は83.7%で、概ね目標を達成した。 	A
		進路課	<ul style="list-style-type: none"> ●成績上位層の生徒については、能力に見合った大学を志望するように働きかけ、教員については2次試験対策指導力を高める。 ●進路意識高揚のため、進路シラバス・進路課ポータルサイト「さくら咲く」を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年次の希望者を対象とした難関大講演会を各年次1回以上行う。 ○外部機関の教科指導研修に4名以上の教員が参加する。 ●進路シラバスや「さくら咲く」を進路LHRや総合的な探究の時間など複数の場面で用いることにより、効果的な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次の難関大講演会は3月、2年次の難関大講演会は12月に行うように計画した。 ○外部機関の教科指導研修に4名(国・数・英・化)の教員が参加した。 ●今年度から年度初めに進路シラバスを配布し、一年間の見通しを示した。また「さくら咲く」を運営し、大学やオープンキャンパス情報、学習の仕方などを発信している。2年次の95.3%がオープンキャンパスに参加した。進路志望調査などを「さくら咲く」から入力するようにし、アクセス機会増を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○2年次の難関大講演会は12月9日に行い45名が参加した。1年次の難関大講演会は3月に実施予定である。 ○外部機関の教科指導研修に4名(国・数・英・化)の教員が参加した。 ●「さくら咲く」のサイトで、卒業生の受験報告書(口頭試問や面接など)を生成AI(NotebokLM)を活用して利用できるようにした。 	B
	人文系	<ul style="list-style-type: none"> ●「総合的な探究の時間」や「人文表現」での学びを通して、経済学や文学、教育学など人文科学分野への興味関心を高め、グループディスカッションや小論文等で思考力と文章力を身に付けて的確に表現できる力を養う。 ●主体的にテーマを設定し人文系の特色ある探究活動を行い、各種コンクールや社会貢献活動などの成果発表の場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「人文表現」でルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○生徒アンケートにより、「自分の思いや考えを表現する力が向上した」等の肯定的評価を80%以上の生徒が回答する。 ○2年次生の80%以上が、校外のコンテストやイベントなどに複数回、参加したり、成果を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の結果から、2年次生の「表現力」の最上段評価項目は17.5%であった。「人文表現」では表現力をより高めるために、校外研修やグループディスカッション、小論文指導などを実施し、10月実施予定のルーブリック評価の結果を分析していく。 ○授業に関する生徒アンケートは、11月末に実施予定である。 ○人文系2年次生は全員、「人文表現」で作成した俳句等を「総社市文学選奨」(10月)や、その他外部へ応募予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●「表現力」の最上段評価項目は33.8%に上昇した。2段目項目と合わせると83.2%となり、人文系での教育活動を通して、表現力が向上したと生徒が実感できていることがわかる。 ○授業に関する生徒アンケートでは、「自分の思いや考えを表現する力が向上した」等の肯定的評価を97.1%の生徒が回答した。 ○「総社市文学選奨」、及び、企業主催のコンテストに人文系生徒全員が応募し、2年次生の100%が、コンテストやイベントなどへの複数回の参加を達成した。また、2年次生の未来探究の歴史グループが「第10回高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム」に参加し、優秀賞を受賞した。 	A	
	理数系	<ul style="list-style-type: none"> ●「総合的な探究の時間」や「理数表現」での学びを通して、理学部や工学部など自然科学への関心を高め、グループディスカッションやまとめ等での考えを論理的に表現する力を養う。 ●主体的にテーマを設定し、理数系の特色ある探究活動を行い、各種コンテストや社会貢献活動などの成果発表の場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「理数表現」でルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○生徒アンケートにより、「理数系の学問に対する知識・技能が深まった」等の肯定的評価を80%以上の生徒が回答する。 ○2年次生の80%以上が、校外のコンテストやイベントなどに複数回、参加したり、成果を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の結果から、2年次生の「表現力」の最上段評価項目が10.3%であった。「理数表現」のなかで、授業の振り返り時に、他の生徒からの意見をもらい、表現を見直すなどの活動をしている。10月実施予定のルーブリック評価の結果を分析していく。 ○授業に関する生徒アンケートは、11月末に実施予定である。 ○let's study with ジャミ生(33名)、物理チャレンジ(4名)や、ロボットアイデア甲子園(4名)などに参加した。複数回参加できている生徒は15名であり、達成率は18%である。今後、サイエンスチャレンジや総社わくわくフェスティバル、科学の祭典等に参加予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●ルーブリック評価で、「表現力」の最上段評価項目は18.6%に上昇した。 ○授業に関する生徒アンケートでは、「理数系の学問に対する知識・技能が深まった」に対して、96.4%が肯定的な回答をした。 ○サイエンスチャレンジ(5名)や総社わくわくフェスティバル(29名)、Let's study with ジャミ生などに参加し、2年次生の80.1%が、校外のコンテストやイベントなどに複数回、参加したり、成果を発表したりすることができた。 	A	
	国際系	<ul style="list-style-type: none"> ●「総合的な探究の時間」や「国際表現」の活動を通して得た知識や教養を整理して、自分の言葉でスピーチやプレゼンテーション等で表現・発信させる。 ●スピーチコンテスト、イングリッシュ・デイ、日本語教室ボランティアなど年次を越えた交流の機会を提供する。 ●主体的に授業で培った表現力を、外部の人の前やコンテストの場で実践する機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「国際表現」でのルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○事後の活動レポートで、「英語力が向上した」「広い視野が持てるようになった」等の肯定的な評価を、80%以上の生徒が回答する。 ○年次を越えた交流の機会を学期に1回提供する。 ○2年次生の80%以上が、校外のコンテストやイベントなどに複数回、参加したり、成果を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の結果から、2年次生の「表現力」の最上段評価項目の割合は13.0%であり、「思考力」の最上段評価項目の割合は21.7%であった。「国際表現」の授業において、身に付けた思考力を表現する力を高めるために、プレゼンテーションをさせる等の授業実践を実施しており、10月実施予定のルーブリック評価の結果を分析していく。 ○事後の活動レポートについては、10月実施予定である。 ○現時点で7月実施の校内スピーチコンテスト(全員)や、Let's Study(23名)で年次を越えた交流を2回実施できている。 ○10月のインターナショナルフェスタ(21名)に参加した。今後、11月の外国人集住都市会議(全員)、1月のイングリッシュ・デイ(全員)、プレゼンコンテストなどに参加予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●「表現力」の最上段評価項目の割合は、27.3%まで上昇した。2学期はフィールドワークを多く実施し、11月にその成果を発表する機会が複数回持てたことにより、生徒たちが自分で成長を実感できたためと思われる。 ○事後の活動レポートでは、「英語力が向上した」「広い視野が持てるようになった」等の肯定的な評価が93.6%だった。 ○年次を越えた交流として、中間期までのものに加えて、11月の外国人集住都市会議(全員)や、12月のLet's studyでも年次を越えた交流が実施できている。また、10月から日本語教室ボランティア開始し、日曜日ごとに年次を越えた活動を継続実施中である。1月に1、2年次合同でのイングリッシュ・デイ(全員)を実施した。 ○11月にノートルダム清心女子大学でグローバル探究活動発表会(39名)に参加し、外国人集住都市会議(48名全員)に参加・発表した。1月にイングリッシュ・デイ(全員)に参加した。2月に福山平成大学主催のプレゼンテーションコンテスト(2名)に参加した。以上の活動により、2年次生の100%が、コンテストやイベントなどへの複数回の参加を達成した。 	A	

		<p>美工系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」や「美工表現」などの学びを通して、社会や美術・デザインに関する関心を高めさせ、多様な方法で表現できる力を育成したり、系選択の基盤づくりにつなげたりする。 ・美術工芸系作品展などの活動にあたり、企画から生徒に主体的に取り組み、発表の機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「美工表現」でルーブリック評価を実施し、「表現力」を柱とした分析を行う。 ○総合的な探究の時間や表現Ⅰの授業で「デザイン思考」「スライドの作り方」について、本校卒業生を講師に招き、講義と演習をしていただき、事後のアンケートで70%以上の生徒が「美術・デザインに関して感心が高まる」、もしくは「面白いと感じた」と回答する。 ○美工系作品展の中でギャラリートークを行い、事後アンケートで、80%以上の生徒が「作品展およびギャラリートークの企画に主体的に取り組み」と回答する。 ○2年次生の80%以上が、校外のコンクールやイベントなどに複数回、参加したり、成果を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の結果から、2年次生の「表現力」の最上段評価項目の割合は、15.4%であり、「創造力」の最上段評価項目については、19.2%であった。また、2年次生が専攻選択するうえで、本人の希望とともに授業課題評価も考慮しながら決定をした。ルーブリック評価は、12月に実施予定である。 ○1年次生全体に対して行った、表現Ⅰでの「デザイン思考」「スライドの作り方」の講演会で「美術・デザインに関して感心が高まる」、もしくは「面白いと感じた」と答えた割合は97%であった。 ○ギャラリートークの事後アンケートについては、12月に実施予定。 ○現在、岡山県高等学校美術展ポスター原画審査(8名)や高校生美術コンクール(23名)などに参加している。今後、美工展や県高等学校美術展等に出品予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●2年次生の「表現力」について、最上段評価項目の割合が年度当初の15.4%から25.0%に上昇した。 ○1年次生全体に対して行った、表現Ⅰでの「デザイン思考」「スライドの作り方」の講演会で「美術・デザインに関して感心が高まる」、もしくは「面白いと感じた」と答えた割合は97%であった。 ○美工系作品展のギャラリートークにおける2年次生の「実行力」について、事後アンケートで「主体的に取り組み」と回答した割合は75.0%となった。 ○2年次生の96%が、校外のコンクールやイベントなどに2回以上参加したり、成果を発表したりした。 	B
		<p>人文系</p> <p>授業や人文系行事において、「ジャミビジョン」を生徒に示し、目的意識を持って活動できるように指導する。特に、人文系行事においては、その行事で意識させたい力を具体的に示し、その力の向上を意識させるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初に実施したルーブリック評価の分析を踏まえて、人文系の取組を行う。そのうえで、複数回のルーブリック評価を実施し、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の評価を分析すると、最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合で、高いものが「協働力」85.0%、「表現力」65.0%であった。逆に低いものは「創造力」42.6%、「実行力」50.0%であった。 ●7月の「表現力」についての人文系講演会後に、ルーブリック評価を実施した。「表現力」について、年度当初の回答と比較すると、下位2段の評価項目が、35.0%→2.0%と大幅に減少し、最上段評価項目は17.5%→51.0%と向上している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●各行事の目的や付けたい力を振り返りシートに明記し、説明を加えるなどの事前指導を行い、各行事ごとに丁寧に振り返りを行った結果、年度当初の分析で最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合で低かった「創造力」42.6%・「実行力」50.0%が、「創造力」78.0%・「実行力」80.6%まで上昇した。 	A
	(1)	<p>理数系</p> <p>授業や理数系行事において、「ジャミビジョン」を生徒に示し、目的意識を持って活動が実施できるように指導する。特に、理数系行事においては、その行事で意識させたい力を具体的に示し、その力の向上を意識させるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初に実施したルーブリック評価の分析を踏まえて、理数系の取組を行う。そのうえで、複数回のルーブリック評価を実施し、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の評価を分析すると、最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合で、高いものが「思考力」75.6%、「協働力」71.8%であった。逆に低いものは「創造力」48.7%、「実行力」52.5%であった。 ●県立大学訪問実施時には、「実行力」などのルーブリックを確認させ、「目標を設定し、確実に実行する力」などを意識するような事前指導を行った。理数系の活動におけるルーブリック評価を、10月に実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●各行事の目的や付けたい力を丁寧に確認するなどの事前指導を行った結果、年度当初の分析で最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合が低かった「創造力」48.7%、「実行力」52.5%が、「創造力」74.5%・「実行力」77.9%まで上昇した。最上段評価項目だけを見ても、「創造力」5.1%・「実行力」12.8%が、「創造力」18.6%・「実行力」27.1%と上昇した。 	A
	2	<p>国際系</p> <p>学校内外の国際系行事において、「ジャミビジョン」を生徒に示し、目的意識を持って活動が実施できるように指導し、成長を実感させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初に実施したルーブリック評価の分析を踏まえて、国際系の取組を行う。そのうえで、複数回のルーブリック評価を実施し、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の評価を分析すると、最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合で、高いものが「思考力」87.4%、「協働力」71.7%であった。逆に低いものは「創造力」47.8%、「実行力」50.0%であった。 ●姉妹校短期留学実施時には、「実行力」などのルーブリックを確認させ、「目標を設定し、確実に実行する力」などを意識するような事前指導を行った。学校内外の国際系の活動におけるルーブリック評価を、10月に実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●6つの行動目標のすべての力において、評価が上がっており、最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合は、80～90%に及ぶ。とりわけ、「表現力」は最上段評価項目が2倍増の27.3%、「実行力」は2.8倍増の36.4%になった。活動の成果を発表する機会を活用して成長を実感したようだ。上昇が難しいと予想していた「思考力」や「判断力」においても評価が上昇した。探究活動を通して試行錯誤しながら判断・行動した証と考える。 	A
		<p>美工系</p> <p>・日頃の授業や美工系行事、進路指導において、場面に応じて「ジャミビジョン」を適切に生徒に示し、意識させるよう指導する。事前指導で達成すべき項目を示し、事後に生徒が振り返ることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初に実施したルーブリック評価の分析を踏まえて、美工系の取組を行う。そのうえで、複数回のルーブリック評価を実施し、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初の評価を分析すると、最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合で、高いものが「判断力」46.2%、ついで「表現力」「思考力」「創造力」が42.3%であった。逆に低いものは「実行力」23.1%、「協働力」34.6%であった。 また、特別入試で入学した1年次生は、8月末にルーブリック評価を行った。年次ごとの実技指導等により、生徒一人ひとりの力は徐々に高まっており、新たに乗り越えさせたい課題が見えてきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●評価について、最上段評価項目と2段目評価項目とを合わせた割合は、6つの力すべてにおいて上昇した。高い順に「創造力」「実行力」「協働力」75.0%、「思考力」70.9%、「判断力」66.6%、「表現力」54.2%であった。絵画・デザイン・彫塑の専攻に分かれ、生徒それぞれが自身の課題を見出し、その課題と向き合い制作に取り組んだ結果である。 	A
	(2)	<p>進路課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来探究Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰ、進路行事を相互に関連づけ、効果的なキャリア教育と進路指導を行う。 ・Google Workspace、Classi、キャリアナビを活用し、未来探究ⅠおよびⅡ、表現Ⅰを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●未来探究などのマニュアルを作成し、教員間で共有することで、指導を充実させる。 ○効果的なキャリア教育と進路指導を行うために、外部講師をのべ8名以上招く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1・2年の未来探究マニュアルを作成し、全体の流れを教員間で共有している。また、課題研究を除く授業において、毎時間、指導案を示し指導の充実を図った。 ○9月末までに外部講師を9名招き、進路ガイダンスや進路講演会、スライド作成講座、アンケート調査の手法講座などを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●総採委員会他に、実務担当者(9名)での打ち合わせ会議を10回以上実施し、全体の流れなどを教員間で共有した。 ○表現Ⅰにおいて、講演会などの7講座における満足度(5段階評価)は、5講座が4以上であった。表現Ⅰのアンケートでは、78%の生徒が「探究に対する知識やスキルが身についた」・「探究に活かせる」と回答した。12月までに外部講師を13名招き、効果的なキャリア教育と進路指導を行った。 	A
	(1)	<p>CSプロジェクト委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度のCS導入に向けて、実施計画の具体化を図り、学校運営協議会委員の選定を行う等、必要な準備を整えていく。 ・CSとなることを周知するために、学校ホームページやSNSなどを活用して情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実施計画の具体化を図り、学校運営協議会委員の選定を行う等、必要な準備を完了する。 ○確定した情報を、複数回発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●CSプロジェクト委員会は2回開催し、計画の具体化を進めている。10月下旬までに運営協議会委員の選定や、実施要項等を完成させ、年内に関係各所との連携依頼や、委員の打診を行う。 ○校内への情報発信を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●CSプロジェクト委員会は6回開催し、次年度の実施要項を10月の職員会議に諮り、承認された。また、内容の詳細について、1月の職員会議に諮り、承認された。 ○校内への情報発信を行った。 	B
	3	<p>教育DX推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備を行い、採択された計画書に基づいて、事業を推進する。 ・外部人材を活用した講義を実施したり、生徒が企業や関係機関などと連携した活動を行えるようにしたりする。 ・姉妹校短期留学や海外修学旅行等の機会を捉えて、様々な形でICTを利用し外部との交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●採択された計画書に基づいて、事業が実施できているかの検証を行う。 ○専門の外部人材を招聘し、特定のトピックやスキルに焦点を当てた講義を年3回以上実施する。 ○総合的な探究の時間における課題研究では、80%以上の2年次生が企業や関係機関などと連携を図る。 ●ICTを利用した外部との交流を複数回実施する。 ○姉妹校短期留学や海外修学旅行等の活動報告や事後のアンケートから「自己の成長を実感できた」等の肯定的評価を80%以上の生徒が回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文部科学省による中間実績調査を通して、委員による検証を行った。 ○1年次生や姉妹校短期留学参加者に対して、外部人材による講義(RESAS、グラフィックレコーディング、海外フィールドワークにおける探究学習など)を9月末までに延べ10回行った。 ○2年次生の89%が、個別企業や大学などと連携した活動を行った。 ●ICTを利用して、修学旅行先の韓国の高校とオンライン交流を実施した。姉妹校とは、10月から11月の間に実施したい。 ○姉妹校短期留学対象者へ行ったアンケートでは、82.3%、海外修学旅行対象者では97.1%の生徒が自己成長を実感したと回答した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●文部科学省による中間実績調査を通して、委員による検証を行った。 ○1年次生や姉妹校短期留学参加者に対して、外部人材による講義(RESAS、グラフィックレコーディング、海外フィールドワークにおける探究学習など)を12月末までに延べ12回行った。3学期に、大学教員による生成AI研修を実施した。 ○2年次生の95%が、個別企業や大学などと連携した活動を行った。 ●ICTを利用して、修学旅行先の韓国の高校とオンライン交流を実施した。姉妹校短期留学参加者17人中13人が、ホストファミリーと継続的にオンライン交流を実施している。また、姉妹校と2月にオンライン交流を実施した。 ○姉妹校短期留学対象者へ行ったアンケートでは、82.3%、海外修学旅行対象者では97.1%の生徒が自己成長を実感したと回答した。 	A

4	(1)	教務課	教務課関係の創立40周年記念式典に向けた準備を滞りなく進め、記念講演の企画・運営も確実に進行など、チームとして仕事を進める。	●計画通りに準備が遂行され、当日の運営も遅延やトラブルなく進行される。	●招待状の送付や式典内容の企画など、準備は計画通り行っている。	A	●式典までの製作物などは予定通り実施でき、当日の式典も大きなミスなく時間通り執り行うことができた。	A
		生徒課	創立40周年記念式典に向けて、生徒が来校者を迎えるにふさわしい身だしなみやあいさつができるように指導を行う。	○学校評価アンケート項目4番「学校は身だしなみや、あいさつができるような指導をしている」において、肯定的評価を80%以上の生徒・保護者・教員がそれぞれ回答する。	●週1回のあいさつ運動及び交通指導、年度初めと学期末の身だしなみ指導に加えて、生徒課を中心に、創立40周年記念式典に向けて、登下校時や授業等での声掛けに取り組んでいる。	A	●40周年式典へ向けて、週1回のあいさつ運動に加えて、2学期以降、生徒課教員を中心に、可能な範囲で朝の通学時に身だしなみ指導やあいさつ運動を行ったことにより、一定の成果を上げることができた。 ○学校評価アンケート項目4番「学校は身だしなみや、あいさつができるような指導をしている」において、生徒95.9%・保護者81.2%・教員70.6%だった。	A
		進路課	各年次主任と協力し、創立40周年記念式典に向けて生徒（受付・案内誘導・接待係）へ適切な指導を行う。	●計画的に関係各所と連携をとり、準備を進める。 ○招待者に本校のもてなしを感じてもらえるよう、各担当（受付・案内誘導・接待係）で事前指導を複数回行う。	●関係各所と連携をとり、受付・案内・接待のマニュアルがほぼ完成した。 ○生徒用來賓対応マニュアルを作成し、各担当（受付・案内誘導・接待係）で事前指導を2回以上行う計画である。	A	●受付・案内・接待のマニュアルを作成し、役割分担を明確にし、滞りなく業務を遂行した。 ○生徒用來賓対応マニュアルを作成し、事前指導を各担当（受付・案内誘導・接待係）ごとに2回または3回行い、式前日には全体リハーサルを行った。	A
		厚生課	・創立40周年記念式典に向けた準備を滞りなく進める（記念品・感謝状準備等）。 ・校内美化・環境整備に取り組む。	●計画的に関係各所と連携をとり、準備する。 ●校内美化に向けて、生徒が主体的に校内を点検したり、必要に応じて清掃活動を行ったりするような取組を企画する。	●計画的に関係各所と連携をとり、準備している。 ●前日の清掃計画も含めて、校内美化にむけて、教員・生徒共に活動している。夏のオープンスクール前の大掃除で清掃が必要な箇所を事前に確認するなど、環境委員の取組ができています。	A	●計画的に関係各所と連携をとり、行うことができた。 ●40周年前日の清掃計画も含めて、校内美化にむけて、教員・生徒共に活動することができた。環境委員それぞれ環境美化に向けて分担し、主体的に活動することができた。（1年：花壇整備、2年：資源ごみ回収、3年：前日大掃除特別箇所清掃）	A
		総務課	・創立40周年記念式典における記録計画の作成に伴い、式典の進行表をもとに撮影計画を立案する。 ・記念誌の誌面構成を計画し、原稿依頼・回収・編集・校正を、校内組織委員や印刷業者との連携を図りながら、スケジュール管理する。	○行事2週間前までに記録計画を作成し、関係者に1週間前までに共有する。 ○行事終了後、2週間以内にデータの整理を完了する。 ●記念誌について、計画的に原稿提出から校正までを行い、校正3回以上の実施、誤字脱字を0件とする。	○記録計画の作成に向けて、記録に係れる人員を確認するなどの作業を進めている。 ○2週間以内のデータ整理に向けて、記録場所の検討を進めている。 ●記念誌について、校内組織委員や印刷業者との連携を図りながら誌面構成を計画し、初稿を入稿した。予定通り、校正3回以上を実施する予定である。	A	○式典当日の進行表をもとに、記録計画を作成して1週間前までに関係者に共有した。式典の事前準備や当日の様子を写真・動画で記録し、式典1週間後にはサーバーに保管した。 ●記念誌について、3回の校正を行い誤字脱字の無い記念誌を期日までに作成した。	A
(2)	人文系	・業務の内容や手順が見えるよう、系内のフォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。 ・行事終了後に「うまくいった点/改善すべき点」を振り返りシートを用いて話し合う時間をとる。	●フォルダを整理し、誰が見ても業務に携われるような記録を残しマニュアルを完成する。 ○行事後2週間以内に担当者と主任で、振り返りシートを用いた振り返りを実施し、記録を人文系フォルダに残す。	●マニュアル作成は行事ごとに整ってきており、7割完成している。 ○各行事前には打ち合わせを行い、終了後すぐに担当者からうまくいった点、改善すべき点をヒアリングし、振り返りシートに記録を残すことができている。	B	●フォルダ整理やマニュアル作成が完成した。 ○各行事前後に打合せと振り返りをおこない、振り返りシートに記録を残すことができ、次年度への引継ぎに必要な情報がそろっている。	A	
	理数系	業務の内容や手順が見えるよう、系内のフォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。	●フォルダ名・ファイル名を規則に則って整理する。 ●フォルダ整理やマニュアルの作成・整備が完成する。	●フォルダ名等の整理はできている。 ●フォルダ整理やマニュアルの作成・整備は約7割完成している。	B	●フォルダ名・ファイル名の整理ができた。 ●フォルダ整理やマニュアルの作成・整備は完成した。	A	
	国際系	業務の内容や手順が見えるよう、系内のフォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。	●フォルダを整理し、誰が見ても業務に携われるような記録を残す。 ●フォルダが整理され、個々の行事のマニュアルが完成する。	●フォルダ名・ファイル名を規則的に整理できている。 ●フォルダ整理やマニュアルの作成・整備は、約6割完成している。	B	●フォルダ名等の整理ができ、記録を残した。 ●フォルダ整理やマニュアルの作成は、行事終了ごとに作成できた。	A	
	美工系	・業務の内容や手順が見えるよう、系内のフォルダを整理し、必要に応じてマニュアルを整備する。 ・系の行事の事前事後に会議を行い、生徒の成長と次への課題を共有し、評価を生徒にフィードバックできるようにする。	●フォルダを整理し、誰が見ても業務に携われるような記録を残しマニュアルを完成する。 ●週に一度は会議を行い、業務の情報共有をするとともに、生徒の状況を把握し、その評価を指導に活かす。	●夏季行事（校外鑑賞学習、人物・人体デッサン）、南翔祭展示、来年度の写生合宿など分野ごとのフォルダをつくり、メモ書きのデータや画像でも残すようにしている。 ●週に一度、また、必要に応じて授業後や空き時間を使い会議を実施し、業務・生徒の情報共有を行い、指導に活かしている。	B	●系の行事、南翔祭展示、来年度の写生合宿など分野ごとのフォルダをつくり、メモ書きのデータや画像でも残すようにした。 ●週に一度、また、必要に応じて授業後や空き時間を使い、業務・生徒の情報共有の会議を行うことで、行事や授業を円滑に進めることや生徒の指導に活かすことができた。	A	